

特定医療法人西城病院附属

一関市東山町松川字卯入道121

ひがしやま病院報

電話 0191-48-2666 Fax 48-2777

<http://higashiyama-hp.com/>

わかみず

令和4年新年のご挨拶

2022年新年を迎えて

特定医療法人ひがしやま病院院長 齋藤勝彦

あけましておめでとうございます。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が世界に拡大し、今年になっても変異株が次々に出現し収束の気配がない。新春を迎えて今一度特定医療法人で老健併設のひがしやま病院を見直してみたいと思います。

新型コロナ感染症の感染拡大防止で行っていることは、院内への持ち込みを極力防ぐことを主眼に行ってきた。そのために発熱外来は病院施設外にプレハブで設置し院内感染の防止に努めている。新型コロナ感染症の否定が困難な救急入院患者さんはゾーニングされた個室3床を設置して対応している。外来患者さん、面会者には正面玄関を閉鎖しインターホンで対応し発熱等のチェックを行った上で入室してもらっている（最近では体温センサーを玄関に設置した）。さらに老健併設医療機関である為、院内クラスター発生予

防には職員全員の感染予防対策を徹底することを基本としている。感染症の院内持ち込みは職員が主であることを認識し、始業前の健康チェックをおこなっている。新型コロナ感染症が通常のインフルエンザと同じようになるのはまだまだ先のことのようにです。

病院の役割は地域に根ざした病院として、常に患者さんの立場に立ち安全と信頼される医療の提供と介護 福祉との連携を図り、良質な地域医療の提供と連携の一役を担うことで変わりはない。

特色は老健さいき(100 床)との併設医療機関で病床数44床の内科中心の医療機関。令和2年9月から地域包括ケア病床を8床新設し当院の機能を充実させた。さらに令和4年1月から17床に増室しようと準備中です。PTも4名に増員しリハビリの充実を図っている。平成29年度の入院患者データでは後期高齢者が80%を占め、傷病名は第1位肺炎、腎盂炎等の感染症で基礎疾患を持っている高齢者が多い、第2位心不全、第3位脳血管障害、第4位は長期臥床による廃用症候群であった。令和3年1月~11月までの直近11ヶ月の入院患者さんのデータでは第1位肺炎82人(32%) 腎盂炎38人(15%)で感染症が約50%を占めている。第2位長期臥床による廃用症候群24人(9%) 第3位心不全19人(7%) 第4位は脳血管障害11人(4%)で5年前のデータと大きな変化はない。入院時より患者さんの要望の多い在宅医療を勧めているが、家族さんからは施設入所を希望されることが多い。直近の退院先は自宅36% 介護施設35% 転院等は4%であった。地域包括ケア病室の設

置をきっかけとして社会福祉士も採用し医療と介護の連携の強化を図った。

今後の方向性としては a) 地域医療構想実現が要請されていますが、新型コロナウイルス感染症の時代にこそ、今まで医療の効率化を主眼とした医療制度改革が行われてきた事に対して、一度立ち止まって総括を試みる必要はないのかと感じております。医療は社会のセフティネットとの考えも入れる必要があるのではと感じておりますが。b) 地域包括ケア病床を導入し病院経営の改善も図ろうとしておりますが、私的小規模病院はスタッフ不足で医療経済に精通している職員もいない、地域医療介護総合基金等を活用してのソフト面からの支援も期待したいと思っております。c) 今後の医療供給状況や病床数の見通し等を考えるときに、新興再興感染症対策と地域における診療レベルアップ対策(当院では昨年医療クラーク導入した)等が同時になれば、住民は安心して医療を利用できないのではないかと危惧しております。

今年も職員と一緒にボトムアップの考えで取り組んでいこうと考えておりますのでよろしくお願いいたします。